



## 第1回JD（合同博士課程）コース開設合同委員会開催

2014年5月12日、第1回JDコース開設合同委員会がTMDU-CU研究教育センターで行われました。会議では、チュラロンコーン大学から委員会のメンバー紹介があり、次に同大学のコース開設案の説明がありました。最初のJDコースは矯正歯科学分野のコースとすること、本学が文部科学省へJDコース申請する際、必要となるカリキュラム、学位の審査体制、学生の管理など重要項目が熱心に議論されました。



第1回JDコース開設合同委員会

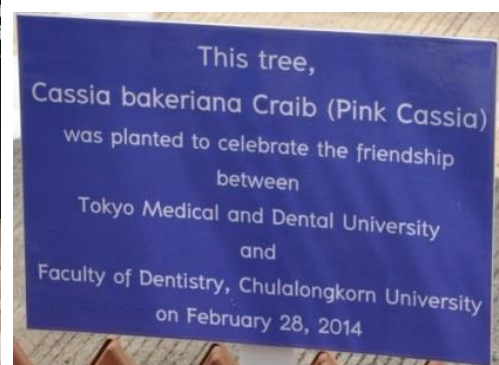
会議を通じて、履修期間は5年間として、うち1年間を本学で研究活動をする事になりました。なお、本会議には、本学からは田上順次理事・副学長、小野卓史教授、森尾郁子教授兼国際交流センター長、小野田勝次国際交流センター特任准教授が参加しました。チュラロンコーン大学からは、スチット歯学部長（チーム長）、シリビモン副学部長（大学院担当）、プリム副学部長（国際・広報担当）、スコムタ副学部長（学生担当）、チンタナ歯科矯正学部門長、スモンツリーJDコース長、テラウットJDコース委員会事務局担当が出席しました。

## チュラロンコーン大学に“友情の木”を植樹

チュラロンコーン大学歯学部と本学とは、長年にわたる共同研究、学生交流の歴史があります。今回のJDコース開設は、この歴史の新しい1ページを開くこととなります。このことを受けて、2014年2月28日、両校の長年の交流及び両大学の友情の証しとして、ピロム学長、大山学長（当時）によりチュラロンコーン大学の校庭の歯学部管理棟の前に「タイ桜」を植えられました。この記念植樹の数日後、シリントン王女がチュラロンコーン大学を訪れた際は、スチット歯学部長より同王女にこの“タイ桜”の経緯を説明されたそうです。



植樹される大山学長（当時）（写真左）とピロム学長（写真右）



記念プレート

## 歯科医療従事者の生涯教育セミナー

2014年2月28日15時からタイ拠点の主な活動の1つである生涯教育研修(セミナー)がバンコクで行われました。今回のセミナーは、タイ日本歯学留学生同窓会と協力して、歯科医療従事者を対象として生涯教育セミナーを行いました。同窓会メンバーやチュラロンコーン大学の院生、学生が多く集まるなか、冒頭、大野理事(当時)からご挨拶を頂き、引き続き田上歯学部長(現理事・副学長)から日本の歯学教育の現状について、“Dental Education in Japan and TMDU”のお話をして頂き、次に小野卓史教授から、矯正歯科治療について“Tooth Autotransplantation for Future Orthodontics”のお話をして頂きました。活発な質疑応答が行われ、セミナーは成功裏に終了しました。



セミナー風景(質疑応答)



本学関係者とセミナー事務局のタイ関係者

## チュラロンコーン大学保健医療学部と学術交流協定書に署名

2013年11月8日、チュラロンコーン大学保健医療学部のプラウド・チャンワンタクン学部長他計4名が本学を訪問し、本学の施設を見学した後プラウド学部長と本学大学院保健衛生学研究科長の井上智子教授の間で学術交流協定書の署名が行われました。これは、2013年7月江石副医学部長(現医学部長)、本学大学院保健衛生学研究科の戸塚実教授、赤澤智宏教授、沢辺元司教授他がタイを訪問し学術交流について打ち合わせた結果が実を結んだもので、今後、学生交流などの交流が促進されることが期待されています。2014年度には、学生交流が開始される予定です。





学術交流協定書署名後の記念写真

## 大腸がん検診システム普及支援プロジェクト

本学のチリでの実績を高く評価した経済産業省は、同省の公益団体である海外産業人材育成協会（HIDA）を通じ、本学にタイでの大腸がん検診システム普及に関する協力を要請をしてきました。これを受けて、江石副医学部長（現医学部長）、大学院医歯学総合研究科の伊藤崇助教、医学部附属病院の荒木昭博講師、伊藤栄作助教、安藤登主任臨床検査技師、内田佳介臨床検査技師、関根正喜臨床検査技師及び国際交流センター小野田勝次特任准教授が2班に分かれ2013年12月12日から20日まで及び2014年2月13日から21日までの2回にわたりチュラロンコン大学医学部、マヒドン大学シリラート病院医学部、国立がんセンターにおいて大腸がんの検診システムに関するセミナーを行いました。各機関とも多くの関係者が集まり、日本の優れた大腸がん検診システムの話に熱心に聞き入っていました。参加者の中には、便の採取に当たりタイのトイレの事情を説明して採取方法を改善して欲しいと言う話があり、2日目のセミナーにそれを改善すると言う話題もありました。また、タイでの大腸ポリープの診断は、日本と診断方法が違うこ

とがわかり、熱心に質問が出ました。今、タイは急速に高齢化社会になっており、それに伴い大腸がんの発生率が高くなっています。そのため、タイの医療関係者は、大腸がんの早期診断、早期治療に高い関心があり、今回のセミナーは、良いタイミングでのセミナーとなりました。

この2回のセミナーの間、上記3機関から現場で働いている医師、臨床検査技師、看護師のリーダーにあたるスタッフを推薦してもらい、2014年1月22日から29日まで3機関11名の研修員が来日し、本学他で大腸がん検診システムの研修を行いました。実際に見る日本の大腸がん診断技術の優秀さに皆さん驚いていました。



国立がんセンターで講義をする江石副医学部長（現医学部長）



江石副医学部長（現医学部長）の講義を熱心に聞く  
国立がんセンター関係者

## 街角トーク イン バンコク

### タイ桜って、どんな花？

タイ桜は、日本の桜とは違います。タイでは、「チョンプー パンティップ」と言う日本名キダチベニウゼン（風鈴木）で、実はタイの在来種ではなく南米原産の木です。ラマ5世王のお孫さんのポリパットさん（王族）の奥様が南米旅行から持ち帰り、全国に広めた木です。この奥様の名前がパンティップさんで、上記のタイ語の意味は“パンティップさんの桃色の花”です。2月から3月にかけてバンコクの街路樹などで開花が見られます。因みにタイの国花は、「ラーチャプルップ」という黄色の花が咲く木です。ゴールドデンシャワーと呼ばれています。この花は4月ごろ咲きます。



タイ桜



ゴールドデンシャワー



#### 拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,  
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,  
Henri-Dunant Road, Bangkok, Thailand

#### 本学内事務局

第1号館西4階 国際交流センター 電話 03-5803-4962 E-mail [bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp](mailto:bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp)  
文責：小野田勝次